

## 6日 火曜

### 詩篇



<40> 指揮者のために。弦楽器に合わせて。  
ダビデの賛歌。

40:1 私は切に【主】を待ち望んだ。主は私に耳を傾け助けを求める叫びを聞いてくださった。

40:2 滅びの穴から泥沼から主は私を引き上げてくださった。私の足を巖に立たせ私の歩みを確かにされた。

40:3 主はこの口に授けてくださった。新しい歌を私たちの神への賛美を。多くの者は見て恐れ【主】に信頼するだろう。

40:4 幸いなことよ【主】に信頼を置き高ぶる者や偽りに傾く者たちの方を向かない人。

40:5 わが神【主】よなんと多いことでしょう。あなたがなされた奇しいみわざと私たちへの計らいは。あなたに並ぶ者はありません。語ろうとしても告げようとしてもそれはあまりに多くて数えきれません。

40:6 あなたはいけにえや穀物のささげ物をお喜びにはなりません。あなたは私の耳を開いてくださいました。全焼のささげ物や罪のきよめのささげ物をあなたはお求めになりませんでした。

40:7 そのとき私は申し上げました。「今私はここにきております。巻物の書に私のことが書いてあります。」

40:8 わが神よ私はあなたのみこころを行うことを喜びとします。あなたのみおしえは私の心のうちにあります。」

40:9 私は大いなる会衆の中で義を喜び知らせます。ご覧ください。私は唇を押さえません。【主】よあなたはご存じです。

40:10 私はあなたの義を心の中におおい隠さずあなたの真実とあなたの救いを言い表します。私はあなたの恵みとあなたのまことを大いなる会衆に隠しません。

神様が私たちの祈りを聞いてくださる目的はいろいろあるでしょう。その中でも、私たちの信仰の成長のため、そして御自身の栄光を表わすためということはそこに入っていると云えます。詩人はここで、「引き上げてくださった」主の救いに感謝しつつ、信仰が成長し、栄光を表すことを明かにしています。

彼の信仰は「私はみこころを行なうことを喜びとします。あなたのおしえは私の心のうちにあります。」ということばに表されています。また彼は「あなたの真実とあなたの救いを告げました。」とあるように、証したのです。

主に祈り願いまししょう。それなしには恵みはありません。また勝利はありません。そして同時に自分自身の信仰の成長と、主の栄光が表わされることを求めましよう。その目的を持って、主に祈りましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

